

2012 中期経営計画の進捗状況について

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明)は、社会イノベーション事業による成長と安定的経営基盤の確立に向けた「2012 中期経営計画」の進捗状況について、以下のとおり報告します。

<本発表のポイント>

- (1) 中期経営計画の最終年度である2012年度は、HDD事業譲渡の影響があるものの、当初計画(2010年5月31日発表)を確実に達成し、さらなる成長を実現する。
- (2) グローバル化加速のための戦略的アプローチとして「新グローバル化推進計画」を策定。11地域を選定し、世界6極体制により現地化を推進。
- (3) 総額1兆7,000億円超を社会イノベーション事業へ投資(2010年度から2012年度)。当初計画より1,700億円を増額。
- (4) Hitachi Smart Transformation Projectを発足し、コスト構造の改革を加速。
- (5) グローバル人財マネジメントの強化に向け、日立グループ全体の人財プラットフォームを再構築。

1. 進捗状況の総括

2010年度の実績、2011年度の見通しおよび2012年度の目標

	2010年度実績	2011年度見通し ^{*1}	2012年度目標 ^{*1}
売上高	9兆3,158億円	9兆5,000億円	10兆円
営業利益 (率)	4,445億円 (4.8%)	4,000億円 (4.2%)	5%超
当社に帰属する当期純損益	2,388億円	2,000億円	2,000億円台の 安定的確保
D / E レシオ ^{*2}	1.03倍	-	0.8倍以下
株主資本比率	15.7%	-	20%

*1 HDD事業譲渡分を補正

*2 非支配持分を含む、証券化事業体の連結に伴う負債を含む

2. 海外売上高比率の見直し

(1) 2012 年度目標:海外売上高比率 50%超

(2) 人員構成

	2010 年度実績		2012 年度目標
	2011 年 3 月末 実績	HDD 事業譲渡 分を補正後	
国内人員	216 千人	215 千人	215 千人
海外人員 (構成比)	145 千人	107 千人(33%)	120 千人(36%)
合計	362 千人	322 千人	335 千人

3. 社会イノベーション事業のグローバル展開状況

(1) 日立が社会イノベーション事業を通じてめざす価値

- ①お客様・パートナーと共に創りあげる価値
- ②10年・20年先まで受け継がれる価値
- ③メーカーとしての規範と使命を具現化する価値

(2) グローバル成長戦略

① グローバルな現地化の推進・拡大 (現地主導による司令塔機能強化)

< 新グローバル化推進計画の策定 >

・注力 11 地域 (インド共和国、インドネシア共和国、エジプト・アラブ共和国、サウジアラビア王国、中華人民共和国、中東欧、トルコ共和国、ブラジル連邦共和国、ベトナム社会主義共和国、南アフリカ共和国、ロシア) の設定と現地司令塔機能の強化

	2010 年度実績	2012 年度目標
注力 11 地域売上高	1 兆 9,000 億円	2 兆 5,000 億円

・米州、欧州、インド、東南アジア、中国、日本の世界 6 極体制へ

- ② パートナーとの連携による事業機会拡大
- ③ 日立の強みを生かした新規事業拡大

4. 経営リソースの重点投入と経営基盤の強化

(1) 経営リソースの重点投入

- ① 事業ポートフォリオ見直しの継続
- ② 設備・戦略投資

・2010 年度から 2012 年度に集中投資

・全社総額 1 兆 6,000 億円 (復興対応を含む) のうち、約 7 割を社会イノベーション事業へ配分

< 社会イノベーション事業への設備・戦略投資額 >

2010 年度実績	2011 年度計画	2012 年度計画
2,200 億円	4,000 億円	4,800 億円

③研究開発投資

- ・研究開発投資の戦略的配分
 - ・全社総額 1 兆 2,000 億円のうち、約 6 割を社会イノベーション事業へ配分
- < 社会イノベーション事業への研究開発投資額 >

2010 年度実績	2011 年度計画	2012 年度計画
2,000 億円	2,300 億円	2,400 億円

④投資計画まとめ

- ・社会イノベーション事業へ総額 1 兆 7,000 億円超の投資を計画(2010 年度～2012 年度)

(2) 経営基盤の強化

①コスト構造の変革

- ・構造変革によるグローバルに勝てるコスト競争力の実現
- ・カンパニー制の深化による個別事業強化に併せた全社横断プロジェクト

Hitachi Smart Transformation Project 発足(2011 年 4 月)

< 集約購買・グローバル調達拡大 >

	2009 年度実績	2010 年度実績	2012 年度目標
集約購買比率	23%	28%	35%
グローバル調達比率	28%	36%	50%

②財務体質の強化

- ・当期純利益の積上げによる株主資本の強化
- ・総資産の圧縮・効率化
- ・資金集中による有利子負債削減
- ・フリーキャッシュフロー黒字継続

③グローバル人財

- ・日立のめざす価値を実現するタレントマネジメント
One Hitachi でグローバル成長を実現
- ・日立グループ全体の人財プラットフォームを再構築
 - ー専任組織「グローバル人財本部」設立(2011 年 7 月)
 - ーグループ全社員を対象とする人財データベース(～2012 年 3 月)
 - ーマネージャー以上の職務価値を統一評価するグローバルグレーディング制度(～2012 年 3 月)

④価値の創造と CSR

社会的価値と経済的価値を同時に創造、持続可能な社会の実現に貢献

5. 新たな決意

<主要事業の展望>

①電力システム事業

	2010 年度実績	2012 年度目標	2015 年度計画
売 上 高	8,132 億円	8,700 億円	1 兆 1,000 億円

②情報・通信システム事業

	2010 年度実績	2012 年度目標	2015 年度計画
売 上 高	1 兆 6,520 億円	1 兆 7,500 億円	2 兆 3,000 億円

③社会・産業システム事業および鉄道システム事業*3

	2010 年度実績	2012 年度目標	2015 年度計画
売 上 高	6,764 億円	8,000 億円	1 兆 1,500 億円

*3 社会・産業システム社、交通システム社、株式会社日立プラントテクノロジーおよび株式会社日立産機システムの合算値

④社会イノベーション事業の営業利益率

	2009 年度実績	2010 年度実績	2012 年度目標
社会イノベーション事業	3.9%	5.1%	7.0%
全 社 合 計	2.3%	4.8%	5.0%超

次なる高みに向かって

- (1) グローバル成長戦略の深化
- (2) 経営リソースの重点配分
- (3) 事業ポートフォリオ見直しの継続
- (4) 財務基盤の強化
- (5) グローバル人財の拡充

復興から新たな時代への挑戦、社会イノベーション事業で社会に応える日立へ

<将来の見通しに関するリスク情報>

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果は見通しと大きく異なることがあります。

その要因のうち、主なものは以下の通りです。

- ・ 主要市場(特に日本、アジア、米国およびヨーロッパ)における経済状況および需要の急激な変動
- ・ 為替相場変動(特に円/ドル、円/ユーロ相場)
- ・ 資金調達環境
- ・ 日本の株式相場変動
- ・ 持分法適用会社への投資に係る損失
- ・ 価格競争の激化(特にコンポーネント・デバイス部門およびデジタルメディア・民生機器部門)

- ・新技術を用いた製品の開発、タイムリーな市場投入、低コスト生産を実現する当社および子会社の能力
- ・急速な技術革新
- ・長期契約におけるコストの変動および契約の解除
- ・原材料・部品の不足および価格の変動
- ・製品需給の変動
- ・製品需給、為替相場および原材料価格の変動並びに原材料・部品の不足に対応する当社および子会社の能力
- ・社会イノベーション事業強化に係る戦略
- ・事業構造改善施策の実施
- ・主要市場・事業拠点(特に日本、アジア、米国およびヨーロッパ)における社会状況および貿易規制等各種規制
- ・製品開発等における他社との提携関係
- ・自社特許の保護および他社特許の利用の確保
- ・当社、子会社または持分法適用会社に対する訴訟その他の法的手続
- ・製品やサービスに関する欠陥・瑕疵等
- ・地震、津波およびその他の自然災害等(特に日本)
- ・情報システムへの依存および機密情報の管理
- ・退職給付債務に係る見積り
- ・人材の確保

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
